

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

東京都 あきる野市

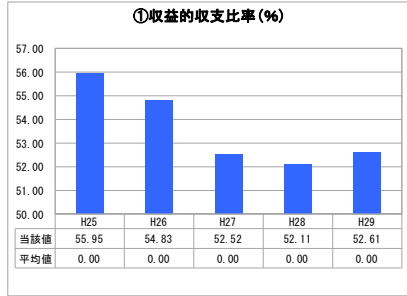
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	93.85	85.63	1,976

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
80,985	73.47	1,102.29
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
75,949	12.61	6,022.92

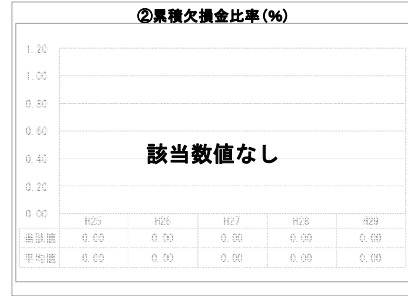
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

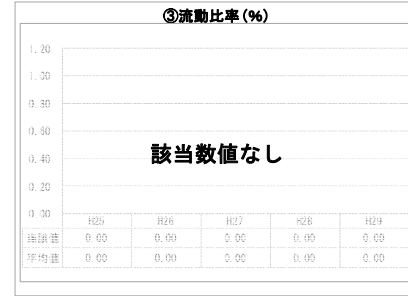
## 1. 経営の健全性・効率性



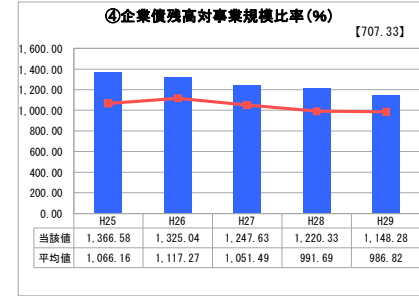
「単年度の収支」



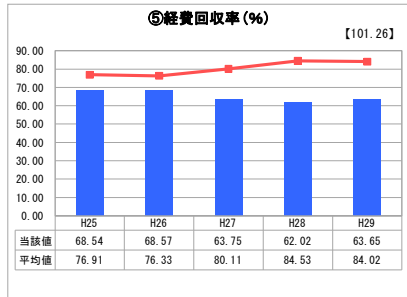
「累積欠損」



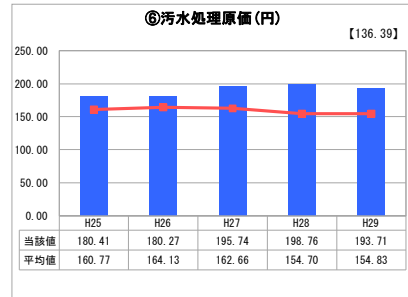
「支払能力」



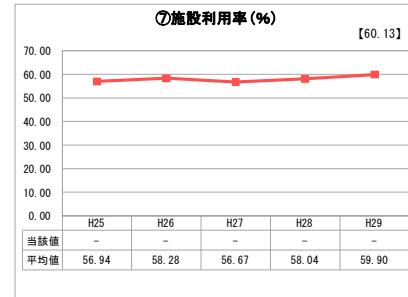
「債務残高」



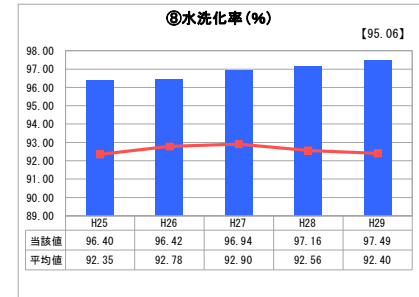
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

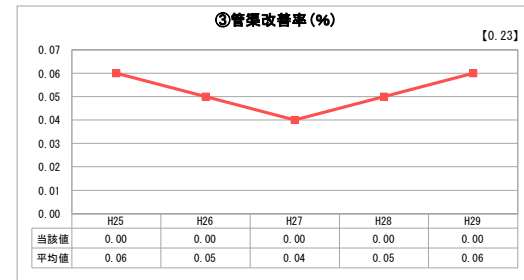
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

あきる野市では平成4年に供用を開始し、平成13年度に市街化区域の整備がほぼ完了し、平成14年度からは引き続き人口密集地以外の市街化調整区域の整備を行っています。

これにより、①収益的収支比率については地方債償還金が減少したため、平成29年度は若干改善しました。④企業債残高対事業規模比率は高比率ですが、地方債現高はピークを越え、年々減少しており、徐々に類似団体平均値に近づいています。⑤経費回収率は60%台で推移しており類似団体と比較して低く、⑥汚水処理原価は低下傾向でしたが平成27年度、平成28年度と上昇し、平成29年度も190円台を維持しました。これらのことから汚水処理費の適切な削減、適正な使用料収入の確保が課題となります。

⑧水洗化率は類似団体平均値より高く、引き続き収入確保と水質保全のため水洗化率の向上に取り組みます。

### 2. 老朽化の状況について

あきる野市の供用開始は平成4年からであり、下水道施設については比較的新しいので、③管渠改善率は低いといえます。

## 全体総括

あきる野市の公共下水道は、いまだ整備段階であり、計画的な事業の進捗を図るため、市全体の整備計画の見直しを進めています。また、今後は下水道施設の老朽化に伴う維持管理にも多額の費用が見込まれ、計画的な維持管理を行っていく必要があります。平成32年度から公営企業会計への移行を予定しており、より一層の経営改善や投資計画の見直しを進めていきます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。